

1. 麻しん届出数（2008年から全数報告）

2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
83	2	3	10	11	4	11	1	1	0	0	41

2. 2019年届出状況

遺伝子型・塩基配列の一致や疫学リンク、発症時期等から、3月と6月に2グループの集団発生があった。散发例5人を含め、計41名の届出あり。

- 遺伝子型B3（20人、初発患者の感染地域はベトナム、医療機関における空間共有などにより感染が拡大し、四次感染者まで発生）
- 遺伝子型D8（16人、初発患者の感染源は不明、近畿圏で流行していたD8型麻しんウイルスによる麻しん感染、五次感染者まで発生）

散发例 届出一覧（5例）

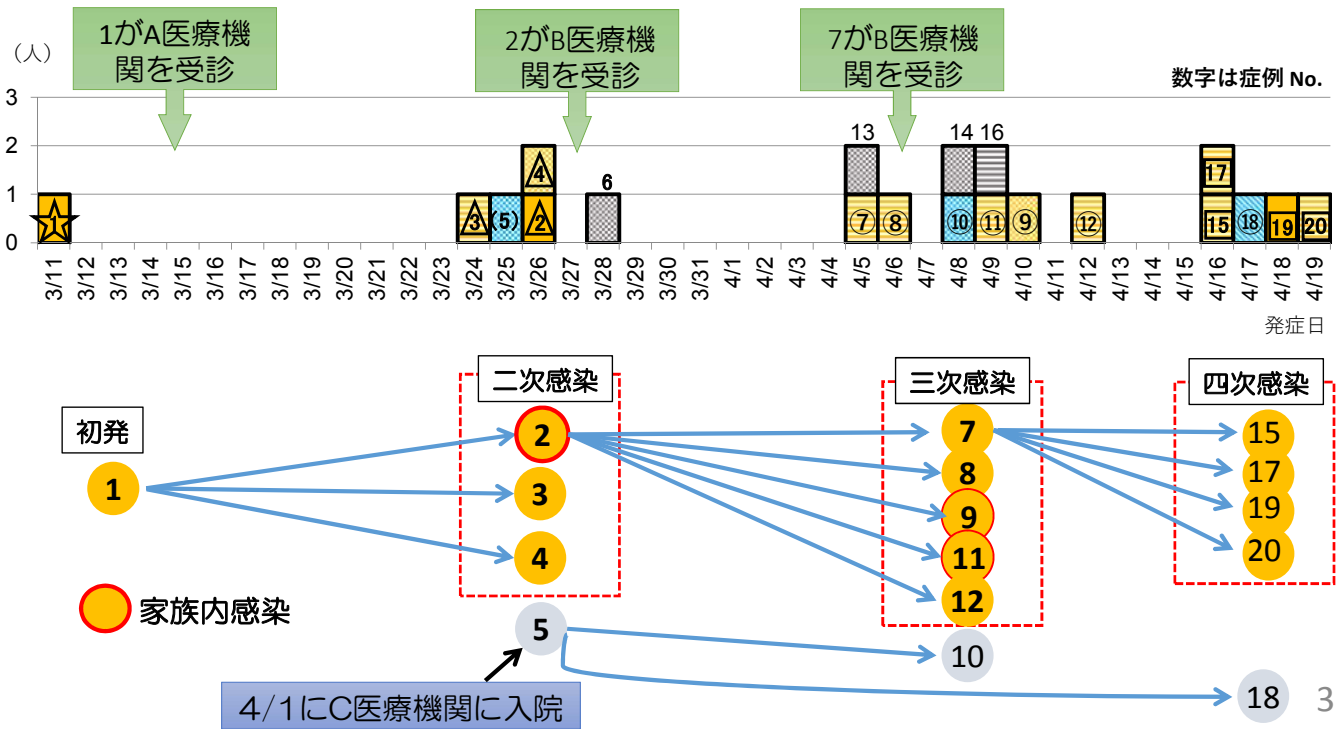
	性別	年齢	診断年月日	感染源・地域等	ワクチン歴	遺伝子型等
1	女	48	2019-02-01	不明	1回	不明(IgM検査診断)
2	女	47	2019-02-22	不明	不明	D8
3	女	45	2019-02-25	ベトナム	不明	D8
4	男	33	2019-04-24	大阪の職場で集団発生あり	なし	B3
5	女	28	2019-11-28	タイ	なし	D8

遺伝子型B3グループ 届出一覧（20例）

	性別	年齢	診断年月日	感染源・地域等	ワクチン歴	遺伝子型等
1	男	25	2019-03-17	フィリピン	不明	B3
2	女	0	2019-03-29	1・A医療機関	なし	B3
3	男	41	2019-03-30	1・A医療機関	不明	B3
4	女	34	2019-04-01	1・A医療機関	不明	B3
5	男	27	2019-04-05	不明	不明	B3
6	女	32	2019-04-03	不明	不明	B3
7	男	1	2019-04-11	2・B医療機関	1回	不明 IgM検査診断
8	男	1	2019-04-08	2・B医療機関	1回	PCR陽性 型別不能
9	女	37	2019-04-10	2・家族	不明	B3
10	女	17	2019-04-12	5・C医療機関	不明	B3
11	男	36	2019-04-12	2・家族	1回	B3
12	女	1	2019-04-13	2・B医療機関	1回	PCR陽性 型別不能
13	女	43	2019-04-15	不明	不明	PCR陽性 型別不能
14	男	53	2019-04-16	不明	不明	PCR陽性 型別不能
15	男	1	2019-04-16	7・B医療機関	1回	PCR陽性 型別不能
16	男	36	2019-04-16	不明	1回	B3
17	男	32	2019-04-17	7・B医療機関	1回	B3
18	女	28	2019-04-18	5・C医療機関	2回	B3
19	女	0	2019-04-18	7・B医療機関	なし	PCR陽性 型別不能
20	男	1	2019-04-20	7・B医療機関	1回	不明 IgM検査診断

# 遺伝子型B3グループ 疫学調査に基づく症例間リンク、発症日および予防接種状況

予防接種歴： 不明 無し 1回 2回  
 疫学リンク色分け： グループ1 グループ2 疫学リンク不明  
 ☆ 初発      △, ○ 二次感染  
 ○ 三次感染      □ 四次感染



## 遺伝子型B3グループ まとめ

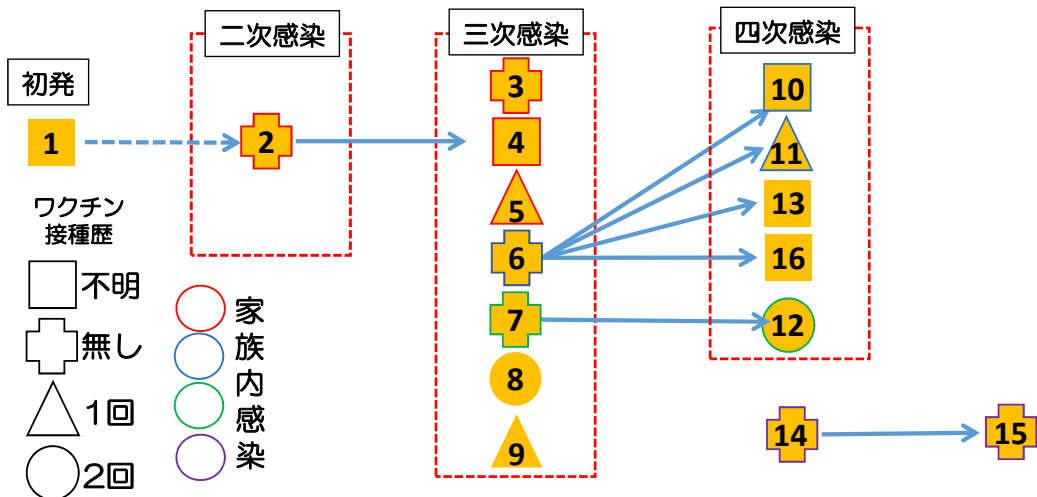
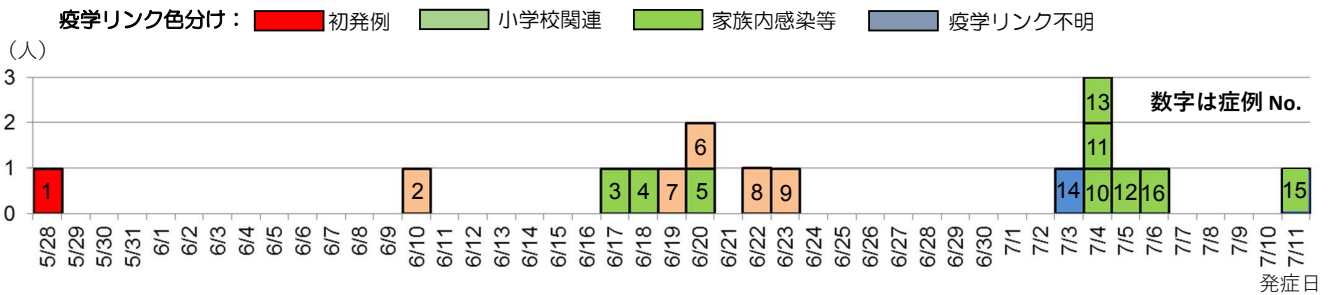
- ・ 初発患者1は日本語が話せず、また体調不良であり、3回A医療機関の救急外来を受診していたが、医療機関内での行動など正確な調査ができなかった
- ・ そのため、症例1からA医療機関での空間共有で感染したと考えられる3名は、健康観察対象者にあがっておらず、感染源調査を進める中でA医療機関受診を把握した
- ・ 市内医療機関へ注意喚起を行うことで、健康観察対象者以外の散発事例の相談や届出が複数あった
- ・ 感染拡大はワクチン接種歴なし、不明の3症例からだけでなく、ワクチン接種歴1回の修飾麻しん患者から医療機関で感染拡大した事例あり（患者が所属する保育園での感染拡大はなし）
- ・ 典型麻しん患者に比べ修飾麻しん患者では、ウイルス量が少ない傾向あり  
検体1mLあたりのウイルス量が $10^6$ を超えると、感染拡大リスク高い
- ・ 麻しん発症から日が浅い場合、IgM抗体検査は陰性となるため遺伝子検査の実施が望ましい

遺伝子型D8グループ 届出一覧 (16例)

	性別	年齢	診断年月日	感染源・地域等	ワクチン歴	遺伝子型等
1	女	40	2019-06-07	不明	不明 (抗体-)	D8
2	男	8	2019-06-13	不明	なし	D8
3	男	4	2019-06-17	2・家族	なし	D8
4	女	30	2019-06-18	2・家族	不明	D8
5	男	40	2019-06-20	2・家族	1回	D8
6	女	8	2019-06-20	2・同クラス	なし	D8
7	女	8	2019-06-21	2・同クラス	なし	D8
8	女	7	2019-06-25	2・同フロア	2回	D8
9	男	35	2019-06-27	2・同学校	1回	D8
10	女	29	2019-07-04	6・家族	不明	D8
11	女	9	2019-07-04	6・家族	1回	D8
12	男	13	2019-07-06	7・家族	2回	D8
13	男	34	2019-07-06	6・知人	不明	D8
14	女	26	2019-07-09	不明	なし	D8
15	女	2	2019-07-11	15・家族	なし	D8
16	男	33	2019-07-16	6・知人	不明	D8

5

遺伝子型D8グループ疫学調査に基づく症例間リンク、発症日および予防接種状況等



6

## 遺伝子型D8グループ まとめ

- ・ 医療機関の受診時の感染拡大はなし（麻しん抗体ありの職員で対応、受診時間の調整など）小学校、家族内での感染拡大が多かった
- ・ 感染拡大はワクチン接種歴なし、不明症例から発生。ワクチン接種歴ありの患者からの感染拡大はなかった
- ・ 症例2はワクチン歴なし。同クラス（29名）のワクチン歴なしの児童2名は発症。ワクチン歴がある他の児童の発症はなかった
- ・ 症例11はワクチン歴1回あり。同クラスにワクチン歴なしの児童1名がいたが発症しなかった
- ・ 学校や医療機関の協力により、早期に受診・遺伝子検査・積極的疫学調査が実施でき、患者からの感染拡大防止が図れた
- ・ ワクチン接種歴がある場合、体内のウイルス量が低い傾向あり。検体1mLあたりのウイルス量が $10^6$ を超えると感染拡大リスクが高い

7

## 麻しんの発生予防・感染拡大防止のために

- ・ 2回のワクチン接種を確実に行うこと（保育園や学校、勤務先での接種歴の確認と勧奨）
- ・ 学校などの患者の所属や医療機関の協力も得て、発症者が適切な受診（早期受診・検査・診断・行動自粛など）を行うこと
- ・ 医療機関では、（麻しんを含む）感染症に備え、日頃からトリアージ、患者動線の検討、適切な受診指示等の院内感染対策を実施すること
- ・ 保健所での麻しんワクチンの効果的な勧奨（現在は、乳幼児健診時に勧奨・就学前の定期接種の未接種者へは個別通知を実施）
- ・ 患者のワクチン歴やウイルス量、健康観察者のワクチン歴などを考慮した、健康観察者への対応
- ・ 麻しん患者発生時、医療機関や地域への注意喚起の実施  
患者の行動調査から健康観察者が特定できる場合は個別に対応、市内医療機関へは情報提供を実施。健康観察者が特定できない場合は、関係機関と調整し広く公表を検討する



8